

[今すぐ実践！省エネ手法]

医療機関で取り組める省エネ手法を紹介します。施設内での省エネ取組みの際にご活用下さい。

医療機関の省エネチェックシート

2つの基本アクションをお願いします。

項目	内容	建物全体に対する省エネ効果	実行チェック	日付
照明	事務室の照明を半分程度間引きする。 (労働安全衛生規則基準値(精密作業300Lx、普通作業150Lx、粗な作業70Lx)にもご留意ください。)	4.1%		
	使用していないエリア(診療時間外の外来部門、診療部門)を消灯する。	4.1%		
空調	病棟、外来、診療部門(検査、手術室等)、厨房、管理部門毎に適切な温度設定を行う。	1.8%		
	使用していないエリア(診療時間外の外来、診療部門等)は空調を停止する。	1.2%		
	日中の日射を遮るために、ブラインド、カーテン、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	1.5%		

メンテナンスや日々の省エネにもご協力をお願いします。

項目	内容	実行チェック	日付
照明	従来型蛍光灯を、LED照明器具に交換する。(従来型蛍光灯から直管型LED照明器具に交換した場合、約50%消費電力を削減。)		
	病棟では無理のない範囲で天井照明を消灯し、スポット照明を利用する。		
	窓際等自然採光部分は消灯する。		
空調	目詰まりしたフィルターを清掃する。		
	排ガスによる放熱ロスを避けるため、ガス吸収式冷温水機について空気比の適正化を図る。		
OA機器	コピー機が複数台ある場合は、使用頻度に応じて稼働台数を減らす。		
コンセント動力	調理機器、冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		
	電気式オートクレープの詰め込み過ぎの防止、定期的な清掃点検を実施する。		
	電気式給湯器、給茶機、エアタオル等のプラグを可能な範囲でコンセントから抜く。		
	温水洗浄便座は、可能な範囲で保温、温水の機能を停止する。		
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長や省エネモードへの切り替え等を行う。		
その他	ディスプレイの輝度を下げ、不要時は消灯する。		
	「クールビズ」を実施する。 デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた省エネ対策を実施する。		

〔ご注意〕

- ・記載している省エネ効果は、建物全体の消費電力に対する目安です。
- ・空調についての省エネ効果は電気式空調を想定しています。
- ・一定の条件の下での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。
- ・省エネを意識するあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。